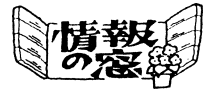


国際会議 ICCOPT 2016 Tokyo 開催の経験と教訓 (3)



—バンケット・会場・渉外—

伊藤 聡 (統計数理研究所), 諸星 穂積 (政策研究大学院大学), 矢部 博 (東京理科大学)

1. バンケット (伊藤 聡)

1.1 はじまり

私がソーシャル・プログラム担当小委員会責任者となったのは、リスボン大会で東京が次回開催地と決まってから3週間ほど経った2013年8月中旬のことだった。行き過ぎた円高が収まり、一年後に円安が始まる小康状態の頃である。小委員会といっても、私と開催校の土谷先生の二人だけだが、比較的早い段階でソーシャル・プログラムとしては、ウェルカム・レセプションなどを除けば、バンケットに限って実施するという事になった。

実行委員会が本格的に動き出すのは、年が明けた2014年の春になるが、4月末の時点での予算計画書によると、会議登録者の8割に実行委員と学生スタッフを加えた380名の参加を見込むとある。また、バンケットチケットは一枚8,000円とし、これ以上高くすることはできない。一部の参加者は無料招待のため、チケットの売り上げは8,000円×350名の280万円程度である。このほかに満たさなければいけない制約として、(1) 立食のピュッフェ形式ではなく、着席の正餐とすること、また(2) 料理が足りなくなるようなことがないこと、があった。これらは、言うまでもなく1988年のISMPにおいて得られた教訓からきている。当初は、豪華にする必要はないが十分な食事がとれること、とソフトな言い回しであったが、会議が近づくにつれて上記の2条件は決して侵してはならないハードな制約条件に変わっていった。

1.2 仮予約から本予約へ

とりあえずは六本木周辺からリサーチを始めることにしたが、まず400名近くが着席できる会場はかなり限られている。また、ホテルの場合は宿泊とセットにすれば割引の可能性はあるが、参加費8,000円の独自採算だとすると相当厳しいことは明白であった。実行委員会で、一人当たり2,000円を補助することにより10,000円を上

限としてよい、ということになった。しかしながら、通常はサービス料が最低でも10%、これに加えて消費税¹、合わせて20%程度がかかってくる。飲食に使えるのは正味8千円強であることに変わりはない。

同時に、もう一つ制約が緩和され、六本木近辺でなくとも山手線内であればよい、バスなどをチャーターすることはできないが、地下鉄で容易に行けるのであればよい、ということになった。これによって新たに候補に挙がったのは、山手線内から少しばかり外れるが、電車を1~2回乗り換えれば、政策研究大学院大学から30分程度で到着する某結婚式場であった。人数は300名、一人当たりの予算は少しオーバーするがフリードリンクであるなどの内容を考えると、六本木周辺よりは現実的であり、豪華な内装も外国人向けには魅力的であった。ホテルなどは、12~13カ月前でないと予約ができないのが普通だが、こちらは仮予約から2週間以内にということで、2014年の10月下旬に本予約を行った。

1.3 急展開

一方、六本木交差点のごく近く、近隣の喧騒が嘘のように静かな一画に、チェーンの居酒屋がある。チェーンといっても、少しばかり謎に包まれた系列である。系列であると思われる各店の名称を見ても、同じ系列であるとはとても思えない²。これから新たに主役として登場する六本木の「すし居酒屋まっちゃん」は、入口こそ高級料亭のように見えなくもないが、10mほど通路を歩いた先の引き戸を開けてみると、そこには紛れもない大衆的な居酒屋の景色が広がっている。すし居酒屋という名のとおり、魚を中心とした居酒屋であるが、その一番の特徴は特に飲み物が激安であることである。

¹ 実際にはそうならなかったが、当時は消費税がまもなく10%に上がるようになっていた。

² ウェブで調べると、謎の激安居酒屋、などとして、有志が調べた系列リストが見つかる。

それまでも六本木に出かけた折に何度か入ったことはあるが、会議まで一年ちょっととなり頻繁に開かれるようになったICCOPT実行委員会³の終了後、初夏の暑い時期であるから、喉の渇きを癒やすために立ち寄ることになる。すると、ここでバンケットをやったらどうかという声が出てきた。その背景には上述の制約条件(2)が大きく関わっていることは疑う余地もない。そのような目で改めて見てみると、安っぽい作りの居酒屋ではあるが、確かに日本らしいといえば日本らしい。外国からと思われるお客さんも結構入っている。

まっちゃんは内部で2階建てになっており、借り切ると全部で290席で、現在予約している会場と比べても遜色はない(快適さを無視した、席数だけの比較だが)。ほかのやや高級な居酒屋では、借り切ると基本料金が跳ね上がるが、まっちゃんではそのようなことはなく、飲食を充実させることができるのはありがたい。ただ、店長にはあまり権限がなく、謎の運営会社の指示を仰ぐことになるので、ほぼ例外なく時間がかかるのが難点ではあった。紆余曲折の末、一年後の8月9日夜の借り切りの予約を入れることとなった。

1.4 当日までの準備

一年以内につぶれることはないという雇われ店長の言葉ではあるが、六本木のこの好立地に建つ激安居酒屋の将来は誰が保証できるのか、心配の種は尽きない。結婚式場の予約の取消料は90日前から発生するので、5月のゴールデンウィーク明けには最終決断しなければならぬ。この日付を忘れないようにしつつ、当日の飲食内容をまっちゃんの店長(を経由して謎の運営会社)と詰めていくことになる。

交渉の内容はできるだけ、手書きであっても文書にしてもらおうようにしていた。このような居酒屋はどこも同じだと思うが、店長が頻繁に変わる。最初に話した店長から数えて三人目だったのであろうか、若い女性が店長になったことがあった。手元に2016年7月1日付けの同店長のメモがあるが、そこには丸文字(死語だと思うが)で「…小さい酒とかって、日本酒…」とあり、われわれを不安にさせるには十分であった。しかしながらこの店長は一週間でいなくなり、次の店長は若いもしっかりした人で、最終的な交渉が一気に進んだ⁴。

さて、前後が逆になるが、5月中旬には結婚式場の

³ 後に4~5時間かかるのが常態になっていくが、この頃はまだ3時間程度であった。

⁴ もう会議まで1カ月を切っていたが。

予約をキャンセルし、後がない状態になった。一方で、ウェブサイトでのバンケットチケットの販売は順調に進み、Early registrationの締切数日前にチケットは完売してしまった。

ちなみに、ウェブページやブックレットには、以下のような文書載せた。

The Conference Banquet will be offered in a cozy Japanese Izakaya (Tavern) style⁵. The Izakaya restaurant is located in the heart of Roppongi, within walking distances from GRIPS or Tokyo Metro/Toei Subway Roppongi stations. Our staff will guide you to the restaurant from GRIPS. Enjoy Sushi, Sashimi and other specialties exclusively chosen for the banquet. A limited number of tickets may be available on-site. Ask for availability at the conference reception if you have not purchased yours online.

ここにあるように、メニューは通常提供していない品も含め、味見をした実行委員の意見も取り入れた、ICCOPT用に特別に作られたメニューである。セレモニー用に日本酒の4斗樽も用意した。4斗樽といっても日本酒が4斗入っている訳ではなく、セレモニー用には通常1斗(=10升)分入れるということを初めて知った。食事や飲物のメニューも作り、ウェブにアップすると同時に、受付には200部程度、当日は各テーブルに一部ずつ置いておくことにした[1]。

1.5 バンケット当日

台風が少し心配されたが、代々木でのサマースクールを皮切りにICCOPTは順調に進んでいた。最終チェックのため当日午後4時過ぎにまっちゃんに偵察に出かけたが、ちょうど4斗樽が搬入されたところで、それらしい雰囲気になっていた。バンケットは午後7時開始であるが、まっちゃん自体は4時半には営業を開始する。開始と同時に客が入店するような人気店であるが、開始時刻ぎりぎりまで数組の客が残っていたのには参った。

Best Paper Prize Awardのセレモニー、そして4斗樽の鏡開きが続く、バンケットが始まった。ベジタリアンの方々への対応など、個々の問合せなどに追われ、とてもゆっくり食事することはできなかったけ

⁵ 言うまでもなく、cozy Japanese Izakayaは大衆居酒屋を意味する。

れども、楽しい3時間であった。また、日本酒1斗は少ないかと心配していたが、ちょうどよい量であった。日本酒以外は飲み放題だったが、店側が気を利かせてオーストラリアワインを大量に仕入れたようで、これはかなり余っただろうと思う。

さて、決して侵してはならない制約条件(2)は満たされたのか。食べ物はかなり量を用意したので、相当余ることにはなった。念のため、希望すれば牛鍋にうどんかご飯を追加できるというオプションまで用意していたが、そこまで到達したテーブルは多くはなかったようだ。余りを多く出して、もったいないという気持ちはあるが、大前提を満たすことができ、またほぼ独自採算で開催できたのだから、それは良しとしよう。

ところで、バンケットの中で一つ事前に予想しなかったことが起こった。全席で一斉に牛鍋に火を入れたものだから、一階はそうでもなかったが、二階の一部では気温が急上昇したのである。夏のさなか、エアコンを最大限に効かせても、汗が噴き出すこととなった。該当するテーブルに座っていた方々には申し訳なく思っている。

1.6 おわりに

今回のICCOPTでは、ほかにサマースクール・ディナー、ウェルカム・レセプション、ポスター・セッション&レセプション、スチューデント・ソーシャルと飲食の機会は多かった。サマースクール・ディナーでのいなり寿司⁶を除くと、ほとんどは洋食が基本であり、大衆居酒屋での和風バンケットはかなり毛色が異なったものに映っただろう。

幸いなことに、参加者の方々からは、概してよい評価がいただけたように思う。不満の声も聞かなかったわけではない。早い時期にチケットが売り切れてしまったため、会期中にも多くの問合せをいただいた。参加したくても参加できなかった方には、この場を借りてお詫びしたい。そのような方から、日を改めてまっちゃんに行ってみたいという声も聞いた。私が書いたInvitation [1]を見て興味をもっていただけのなら、望外の喜びである。

ハード制約を満たし、採算性あるいはコストパフォーマンスという目的関数をもった最適化問題は、当初実行不可能と思われたが、高級さを犠牲にしたとしても、何とか解を見つけることができた。もう一度やれと言われても、二度とやりたくないほど、通常のバンケットに比べて、気苦労は数倍であった。勤務先

が遠いため、六本木にはそう頻繁には行けず、お忙しい土谷先生にお願いすることも多かった。ここで改めてお礼を申し上げたい。

次にISMPやICCOPTを日本で開催することになったら、どのようなバンケットになるのだろう。そんなことを考えながら、3年越しの暑い夏は終わった。

2. 会場 (諸星 穂積)

参加者数の多さを考慮して、政策研究大学院大学をメイン会場、隣接する国立新美術館をサテライト会場として賃借した。パラレルセッションでは、最大17の会場を用意する必要があるが、大学のほぼすべての講義室と会議室を利用したうえで、美術館にも2会場を用意した。大学とは早い段階から事前交渉をして多くの部屋を仮予約することができたが、一方で美術館は2カ月前に利用の可否が判明するという状況で、ある程度の感触は美術館担当者からもらっていたものの、無事に申請が通ったときはほっとした。

会場設備で問題となったのは、プレナリー会場の席数が300と少ないため、入りきれなかった人たちのために、別にパブリックビュー会場を用意することであった。当初は双方向の通信により会場を隔てての質疑応答も考えたが、技術的に難しいことが直前になって判明し、既存のプロードキャスト機能で一方のみ映像音声配信で対応することになった。

一般会場では、席数が不足しそうな部屋には、賃借したパイプ椅子を入れて対処した。このほかにポスターセッション用のパネルも同じイベント業者から賃借し一括して搬出入したので、実行委員側の対応は省力化できた。

会議前日の夕方にウェルカム・レセプション、1日目夕方にポスター・セッションと同時並行で簡単なレセプションを行った。欧米からの参加者が大部分であることから、業者と打ち合わせして、英語のメニューを用意し、食材なども記載してもらった。両日ともどのくらいの人数が来るのか予想が難しかったが、多少余るくらいでよいとの判断で登録者の7割くらいを目安にした。結果的には楽しんでもらったのではないかと思う。

また国際会議では恒例の午前と午後のコーヒープレイクは、場所を2カ所に分散したことで大きな混乱もなく行えた。また酷暑の季節であることから、アイスキャンディやペットボトルの水を大量に用意し好評を博した。

⁶ これは外国人には厳しいだろう。相当余っていた。

3. 渉外 (矢部 博)

3.1 はじめに

「渉外」の小委員会では、成島先生と二人三脚で作業を行い必要に応じて水野先生、村松先生、土谷先生、山下先生とも相談しながら内容を詰めていった。その間、初期の段階で藤澤先生にも貴重な助言をいくつかいただいた。渉外担当委員の主な仕事は、企業からの寄付金集め、財団などの国際交流事業に関連した補助金への申請、企業展示の企画などについて検討し、国際会議の運用資金を確保することだった。また海外の企業からの寄付についても検討していく必要があった。

1988年に東京（中央大学）で開催されたISMP (International Symposium on Mathematical Programming) では会場担当としてお手伝いをした経験はあるが渉外を担当するのは初めてのことであり、ましてやISMPのときには多額の寄付金が集まったと聞いていたプレッシャーもあったため、正直なところ最初引き受けたときは自信がなかった。時代も変わり社会情勢も大きく変化した現在、果たしてどれだけの資金が集まるのか非常に不安であった。そうした中、漠然と援助金申請などについて思案していた頃に吉報が届いた。本国際会議が日本OR学会60周年記念事業の一つとして位置づけられ、学会から多額の支援をいただけることになったとのこと。このことは本当にありがたいお話であり、そのお陰で運用資金集めが楽になった。結果的に、企業スポンサーから寄付を募ることに集中できた。

3.2 企業への募金活動

2014年初め頃から国内の企業向けの寄付金集めのための開催趣意書の作成作業に取りかかった。OR学会事務局にも水野先生たちと一緒に何度か足を運び、事務局長の滝沢さんと企業からの寄付金の受け入れ先や趣意書の内容および配布先について話し合い、結局、企業からOR学会の銀行口座 (iccopt関係) に振り込んでいただいた後に学会事務局から領収証を発行するという方針が固まった。さらに、開催趣意書をOR学会賛助会員企業宛てに送る案も出てきた。そして、OR学会理事会の承認を得て、2014年10月28日付で組織委員会委員長水野眞治先生の名前でOR学会賛助会員宛てに開催趣意書を郵送する運びとなった。今回の寄付の件では学会事務局に大変お世話になった。この場をお借りしてお礼申し上げます。

開催趣意書の内容は水野委員長の挨拶に始まって会

議の概要、開催期間、開催場所、組織委員会委員名、実行委員会委員名、プログラム委員会委員名、寄付申し込み方法、問合せ先などから成っていた。一方、海外の企業からも寄付を募るために趣意書の英語版 (たたき台) も作成したが、実行委員会で審議した結果、送金の手続きや税金関係の手続きなどを考慮して、結局、国内の企業に限定することになった。

日本OR学会賛助会員の企業に開催趣意書を送った甲斐があり、そして水野先生からも個人的に依頼していただいたこともあって、最終的に以下の6社の企業からご寄付をいただいた。

株式会社NTTデータ数理システム
飛鳥コンテナ埠頭株式会社
株式会社システム計画研究所 / ISP
三菱重工業株式会社
株式会社オーグス総研
株式会社構造計画研究所

ここに厚く御礼を申し上げます。

3.3 企業展示

開催期間中の企業展示の企画も渉外担当委員の仕事であった。企業展示については広く一般に呼びかけることはしないで、OR学会研究発表会で出展されている企業に直接呼びかけることにした。またそれと同時に、最適化関係の国際会議でよく見かけるような海外の出版社にも声をかけた。その結果、以下の企業が企業展示に参加して下さった。

株式会社NTTデータ数理システム
株式会社オクトーバー・スカイ
Springer

ここに厚く御礼を申し上げます。また、SIAMからは最適化に関する近刊書数冊と資料が送られてきた。

企業展示の開催場所については会場担当の諸星先生とも相談し、参加者の動線を考慮して1階想海楼ホール前のホワイエに決定した。想海楼ホールは開会式、閉会式、プレナリーセッション、セミプレナリーセッション、ベスト・ペーパーズ・プライズセッション会場として使われるもので本国際会議の中心的な会場であった。そしてホワイエは受付、想海楼ホールおよび1A, 1B, 1Cの各会場を連結する空間となっており、企業展示を開催するにはうってつけの場所だった。

開催期間中は、株式会社NTTデータ数理システムは資料のみの展示、株式会社オクトーバー・スカイは三人の担当者が毎日二人交代で展示、Springerはシュプリンガー・ジャパンの担当者が毎日書籍を展示

して、参加者とやり取りをしていただいた。とりわけ初日のごった返していた時間帯は、本来受付や係員に聞くべき内容（会場への行き方など）を企業展示の方に質問していた海外からの参加者が複数いたようで、そのたびに企業展示の方が丁寧に対応してくださった。ありがとうございます。

3.4 おわりに

当初はどれぐらいの援助資金が集まるか非常に不安であったが、日本OR学会からの資金面での援助と事務的なサポートのお陰で企業への募金活動と企業展示企画が円滑に進んだ。そして運営資金が有効に使われ

て4日間にわたる国際会議が大盛況のうちに終了したことは渉外担当の小委員会として大きな喜びである。

最後に、資金面で多大なご援助をいただいた日本OR学会、企業スポンサーの方々、ならびに、開催期間中に企業展示でご協力いただいた企業の方々に深く御礼申し上げます。

参考文献

- [1] Invitation to the ICCOPT 2016 Conference Banquet, <http://www.iccopt2016.tokyo/social/banquet4-web.pdf>